ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

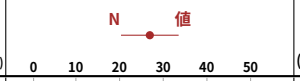
シートNO.

ボーリング名	BP.4		調査位置							北　緯	36 ° 27 ' 56.9100 "
発注機関	栃木県　安足土木事務所				調査期間	2010-07-31 ～ 2010-08-04				東　経	139 ° 30 ' 35.9500 "
調査業者名			主任技師		現場代理人		コア鑑定者			ボーリング責任者	
孔口標高	218.62 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 5.00 °	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具
総掘進長	9.00 m								エンジン		ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	217.62	1.00	1.00		砂礫 (GS)	暗灰		硬い	礫はφ10～20mmの角礫を主体にコア長3～5cm(推定φ80～150mm程)の岩塊を混入する。マトリックスは中～粗砂分と少量の細粒土分で構成され、礫間を非常に緩く充填する。GL-0.7m以深、細粒土分を優勢する。		07/31 0.50
	212.67	4.95	5.95		礫混り粘土 (CH-G)	暗茶褐		中位	土は火山灰質で粘土化進行を伴い、部分的に砂分の含有が見られる。 GL-2.95～3.3m間、礫分の混入が多く、粘土質砂礫状を呈す。		08/04 3.35
								硬い	礫はφ5～20mmの亜角礫を主体に最大φ40mm程を混入する。 GL-5.25～5.5m間、礫分をやや多く含む。		
								中位			
								硬い			
	209.17	3.50	9.45		風化岩 (砂岩) (WR)	暗褐灰			土砂用刃先(メタルクラウンビット)で容易に掘進できる。 風化・変質が岩芯にまで達し、原岩組織は殆ど残さない。 コアは固結を伴う砂質粘土状で採取される。 全体にφ5～20mm程の岩片を認め、GL-8.45～8.6m間は集中区間となる。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	3	2	9／30	9
1.45					
2.15	2	2	3	7／30	7
2.45					
3.15	5	4	4	13／30	13
3.45					
4.15	2	2	2	6／30	6
4.45					
5.15	3	6	5	14／30	14
5.45					
6.15	10	12	16	38／30	38
6.45					
7.15	11	10	12	33／30	33
7.45					
8.15	11	12	13	36／30	36
8.45					
9.15	12	12	13	37／30	37
9.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/31
						08/03
						08/04